

43 日本人による最初のX線写真に

ついて

天野良平

一八九五年一月八日にドイツのヴュルツブルク大学のレントゲンにより、正体未知の線（X線）が発見され、同年一月二八日に印刷公表され、一八九六年（明治二九年）の年明けとともに「レントゲンX線発見」の報は世界中を駆け巡った。医師達により一、二月には早くも臨床利用され、その有用性は不動のものとなった。演者は日本における初期X線研究の歴史に興味を持ち、文献調査を行っている。今回、文献に掲載されているX線写真について紹介し医史的考察を行いたい。

当時日本への伝達は欧州航路によつていたため四十日近くを要していた。したがって「X線発見」の報が日本に伝わったのは、明治二九年二月頃と考えられる。日本

でのX線実験もその頃から始められたと考えてよい。いくつかの文献によれば、第一高等学校教授の水野敏之丞先生らのグループ、帝国大学理科教授の山川健次郎先生らのグループが早く、続いて済生学舎の丸茂文良先生の講演・実習が知られている。京都では第三高等学校教授の村岡範為馳先生と島津製作所の二代目島津源蔵氏の共同研究が早い。これら四グループによる研究が、日本における初期のX線研究であると思われる。研究の内容が具体的に当時の印刷物として残っているものは、演者の知るところでは、第一高等学校の山口鋭之助・水野敏之丞先生の明治二九年五月一五日発行の「れんとげん投影写真帖」および第三高等学校の村岡範為馳先生の七月九日に行われた講述をもとに八月三十一日発行の「レントゲン氏X放射線の話」の二冊である。

医史的にも貴重と考えられるこれら冊子に掲載されているX線写真を中心に、その出所と謂を調査した。

世界で初めてX線で手の骨を見たのは、いうまでもなくレントゲンで彼自身の手の像であつただろう。残っている最初のX線写真は妻ベルタの手の写真で、一八九五

年（明治二八年）一二月二二日に撮ったものである。日本での最初の手の写真はどんな写真であったのだろうか。おそらく第一高等学校水野敏之丞先生らによって明治二九年三、四月に撮影されていると確かに考えられるが、演者は未だその写真を見ていない。謎はまだ解けていない。

（金沢大学医療技術短期大学部）

44 工具による振動障害の歴史

三 浦 豊 彦

振動障害の原因となる代表的な工具としての圧搾空気工具は一九世紀後半から使用が始まっている。フランスの鉋山では一八三九年から圧搾空気さく岩機の使用がはじめたというし、アメリカでは一八四九年に製造が始まった。日本でも一八八一（明治一四）年にさく岩機の試用が始まった。ガソリン・エンジン付のチェーンソーは一九〇五年に出現した。しかし、日本の林業へのチェーンソーの導入は第二次大戦後のことである。

このように各種の圧搾空気工具やチェーンソーは一九世紀後半から二〇世紀はじめに使用が始まったが、振動障害が注目されるのは二〇世紀に入ってからである。つまり振動障害は二〇世紀の職業病なのである。

圧搾空気工具の使用で発生した指の循環障害をはじめ